

## 患者参画による日常生活動作評価表の効果

### 1 病棟 7 階

○中村玲子 笠井年子 小野美知枝 福永智子 高瀬晶子 小西ゆかり  
田部容子 村上志保 黒田由利子 花田千鶴美

### I. はじめに

整形外科看護は、看護の成果が患者の日常生活動作（以下ADLと略す）や行動に表現され、それがそのまま看護の評価となる。しかし、今のケアプランだけでは細かなADLの評価ができず、看護婦間のケアの統一が図りづらかった。そのため、患者からは「してくれる看護婦としてくれない看護婦がいる」という不満の声が聞かれることがあった。また、ADLの拡大を進める際にも、患者と看護婦の間で「気持ちのずれ」が生じることがあった。そこで、正確なADL評価と、評価時に患者とともに目標を共有することを目的に、独自のADL評価表（身体面・心理面・社会面からなる）（表1）を作成した。そして、本研究は入院時、身体可動性の障害が有り、5日以上の術後安静を要する患者を対象に、作成したADL評価表を患者とともに使用し、その効果を明らかにすることを研究の目的とした。さらに、その結果より今後の課題が明らかになったので報告する。

### II. 方法

1. 対象：H12年3月以前に入院し、ADL評価表を使用していない患者40名（以下非使用群と略す）（男性16名、女性24名、平均年齢60.8歳）  
H12年4月から6月に入院中、ADL評価表を使用した患者24名（以下使用群と略す）（男性11名、女性13名、平均年齢55.3歳）
2. 期間：H12年4月から6月
3. 調査方法：使用群には入院時・離床直後・離床後2週間目にADL評価表を患者とともに使用した。入院時はどの程度のADLかを、離床直後は床上安静中にどの程度ADLが低下したかを、離床後2週間目はリハビリや病状の回復によるADLの変化を見た。次に離床後2週間以後に質問紙調査を実施した。非使用群には、郵送・留置法による質問紙調査を実施した。質問紙は看護QA研究会の「看護ケアの質・質問紙」にもとづき、評価項目である食事・排泄・清潔・移動・入院生活の満足度についてそれぞれの下位要素に沿った25項目とADL自立の質問紙を作成した。「非常にそうである」と思う項目を「4」、「そうではない」と思う項目を「1」とし、リッカートタイプの4段階評定尺度とした。
4. 分析方法：総項目平均得点、各下位尺度平均得点、患者の特性（年代別・男女別）についての平均得点を非使用群と使用群で比較した。

### III. 結果

非使用群40名の質問紙調査は29名より回収され有効回答率は79%であり、男性11名、女性12名、平均年齢57.5歳であった。使用群24名は24名より回収され有効回答率は63.2%であり、男性6名、女性6名、平均年齢46.5歳であった。

総項目平均得点は非使用群 2.98 点、使用群 3.1 点であり、有意差は認められなかった。  
(図 1)

各下位尺度平均得点は、食事は非使用群 2.7 点、使用群 2.85 点、排泄は非使用群 3.31 点、使用群 3.11 点、清潔は非使用群 3.09 点、使用群 3.25 点、移動は非使用群 3.25 点、使用群 3.33 点、入院生活の満足度は非使用群 2.87 点、使用群 3.1 点であった。(図 2)

年代別は、20 代・50 代・60 代以上についてはすべての項目で使用群のほうが平均点がうまわった。30 代については、食事は非使用群 3.0 点、使用群 3.0 点、排泄は非使用群 3.7 点、使用群 2.7 点、清潔は非使用群 2.7 点、使用群 3.7 点、移動は非使用群 3.7 点、使用群 3.3 点、入院生活の満足度は非使用群 3.2 点、使用群 3.4 点であった。40 代は使用群のほうで対象者が 0 名であった。(表 2)

男女別は、男性についてはすべての項目で使用群のほうが平均点がうまわった。女性については、食事は非使用群 2.7 点、使用群 3.0 点、排泄は非使用群 3.4 点、使用群 3.1 点、清潔は非使用群 2.9 点、使用群 2.8 点、移動は非使用群 3.3 点、使用群 3.1 点、入院生活の満足度は非使用群 2.8 点、使用群 2.8 点であった。(図 3)

#### IV. 考察

以上の結果より、ADL 評価表使用群の総項目平均得点において、「看護ケアの質」の上昇傾向がみられた。各下位尺度別にみると、食事については、非使用群、使用群にさほどの差がなかった。しかし、平均得点は他の下位尺度と比べ低かった。このことは、患者は疾患の特殊性から、術後の安静により、食事の介助を受けたり、不自由な姿勢での食事摂取が影響していると考ええる。排泄については、唯一、使用群の平均得点が低下していた。理由ははっきりしないが、床上での排泄や、トイレへの移動の介助に時間を要するため「またされている」「即応じて欲しい」という感情を持つのではないかと考える。また、排泄は人の尊厳に関わる問題なので、排泄環境への十分な配慮が必要だと考える。整形外科看護において清潔と移動を安全に行うことが術後の順調な回復において重要である。そのため、看護婦はこのことに特に注意をはらっており、特に当科では人工股関節全置換術を受けた患者に対し、ビデオ視聴による患者指導を行っている。今回さらに、ADL 評価表を使用することで、平均得点が上がったと考える。入院時の満足度については使用群の平均得点があがっていた。「看護婦間の連絡は良い」という項目で平均得点が特に上がっていた。これにより、今回の研究の動機のひとつである「してくれる看護婦としてくれない看護婦がいる」という不満の声の解消につながると考える。

患者の特性では、年代別では 30 代、男女別では女性の使用群において、排泄・清潔・移動について、平均得点が低下していた。ADL 評価表を患者とともに使用することだけでは不十分な要因があると考えられる。アンケートの中で『「下のことは自分でできるだけしたい」という気持ちを看護婦はよくわかっている』という設問で 30 代は低下していた。このことより、この年代の特殊性であり、今後、充分配慮する必要があると考える。

アンダーウッド<sup>1)</sup>は「患者の日常生活上で不足しているものがあるとすれば(つまりセ

セルフケアの欠如がおきているとすれば)、その患者のもつ生物的、社会的、文化的なものを絡めてみていかなければならない。そのことによって、人間をよりダイナミックにとらえることができるのである。」と述べている。ADL 評価において看護婦は「している ADL の評価者」といわれる。とくに高齢者においては介入時十分に関わっていく必要がある。今回身体面・心理面・社会面も加えた独自の ADL 評価表を作成し患者とともに使用した。そうすることで、患者自身の「できない理由」「していない理由」を各時期に患者とともに検討し、次の目標を共有する点で効果があったと考える。

今後の課題として、使用患者を増やし、さらに改善していく必要がある。

#### V. まとめ

- ・ 独自の ADL 評価表を作成した。
- ・ 「看護ケアの質・質問紙」にもとづき、非使用群・使用群で比較した。
- ・ 総項目平均得点が上昇した。下位尺度の食事・清潔・移動・入院生活の満足度で平均得点が上昇した。
- ・ 今後の課題として、使用患者を増やし、さらに ADL 評価表の内容を改善していく必要がある。

#### VI. 引用・参考文献

- 1) 南節子他、セルフケア概念と看護実践—Dr. P. R. Underwood の視点から—、へるす出版、P19～P20、1996、
- 2) 安藤徳彦：評価、日常生活活動(動作)第3版、1992
- 3) 岡谷恵子、看護婦—患者関係における信頼を測定する質問紙の開発—信頼の構成概念と質問紙の項目の作成—、看護研究、28 (4)、257-266、1995
- 4) ドロセア. E. オレム、オレム看護論・看護実践における基本概念、1995

表 1) ADL 評価表

氏名

年 月 日

I 機能 状況	III ADL 状況			
	評価項目	自立	要介助	全介助
I 機能 状況	麻痺 有 ( )・無 ( ) ROM 制限 有 ( )・無 ( ) 器具 ( ) 体位保持 可・不可 (立位・座位・方向転換・起座) 握力 (右 )・左 ) 安静度 ( )			
	膀胱直腸障害 有 (保・便)・無 ( ) 関節変形 有 ( ) 移動手段 ( )			
II 排泄 状況	排尿 ①回数 ( ) ②頻尿 有・無 ③排尿障害 有 (尿閉・残尿感・失禁)・無 排便 ①回数 ( ) ②排便障害 有 (便秘・残便感・失禁・下痢)・無			
	内服 準備 からむき 排尿 方法 ( )			
III 食事	体位作成 セツテイング			
	配膳 下膳			
IV 保 清潔	方法 ( )			
	更衣 洗濯 体を洗う 出入り 見守り セツテイング			
V 整 容	準備 洗面 歯磨き 整髪 爪きり 髪剃り			

評価項目	自立	要介助	全介助	備考
更衣				
準備				
上着				
ズボン				
靴下				
ボタン				
紐				
靴				
器具				
移動				
方法 ( )				
その他				
IV. 患者の心理 (患者の表現で) * 入院生活で不安なこと (入院生活で手助けしてほしいこと)				
V. 家族の状況 キーパーソン				
VI. 総合的判定 (考察)				

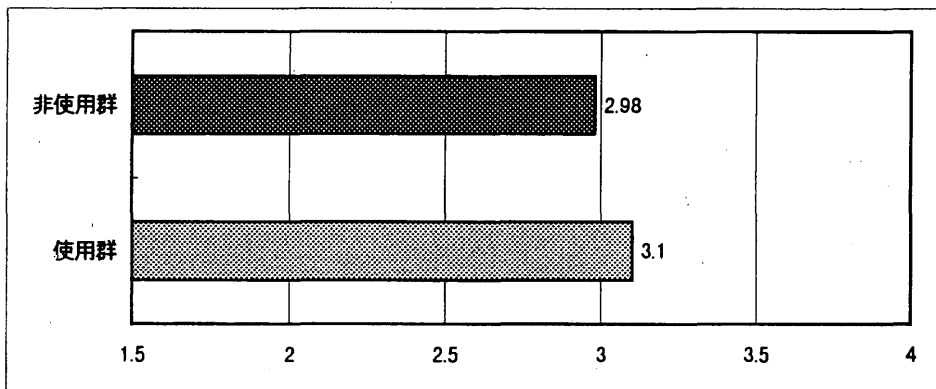


図1. 総項目平均得点

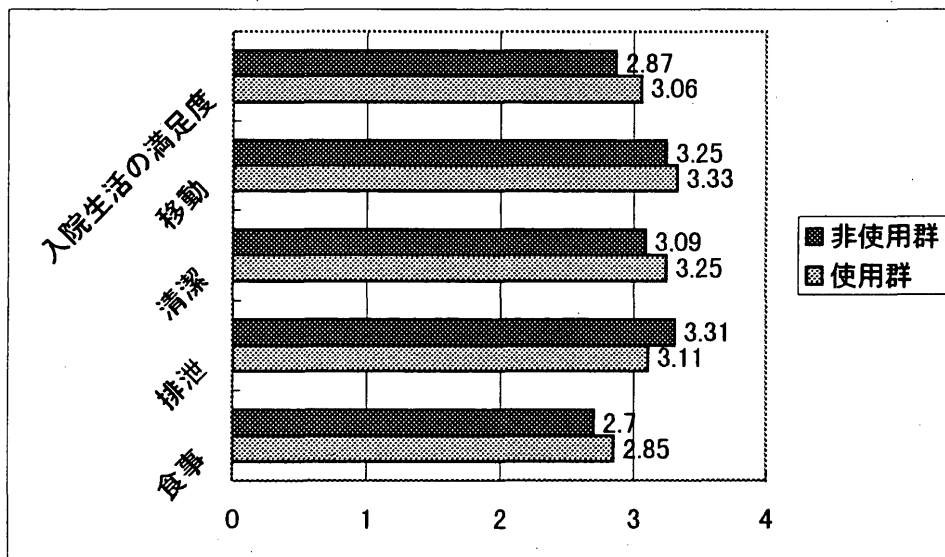


図2. 各下位尺度平均得点

表 2. 年代別各下位尺度平均得点

	食事	排泄	清潔	移動	入院生活の満足度
20代非使用群	2.0	3.0	2.0	2.7	2.4
使用群	3.0	3.0	3.3	3.3	3.0
30代非使用群	3.0	3.7	2.7	3.7	3.2
使用群	3.0	2.7	3.7	3.3	3.4
40代非使用群	2.4	3.0	2.6	2.9	2.3
50代非使用群	2.4	3.0	2.6	2.9	2.3
使用群	2.8	3.4	3.4	3.7	3.2
60代以上非使用群	2.4	3.0	2.6	2.9	2.3
使用群	2.4	3.4	3.4	3.7	3.2

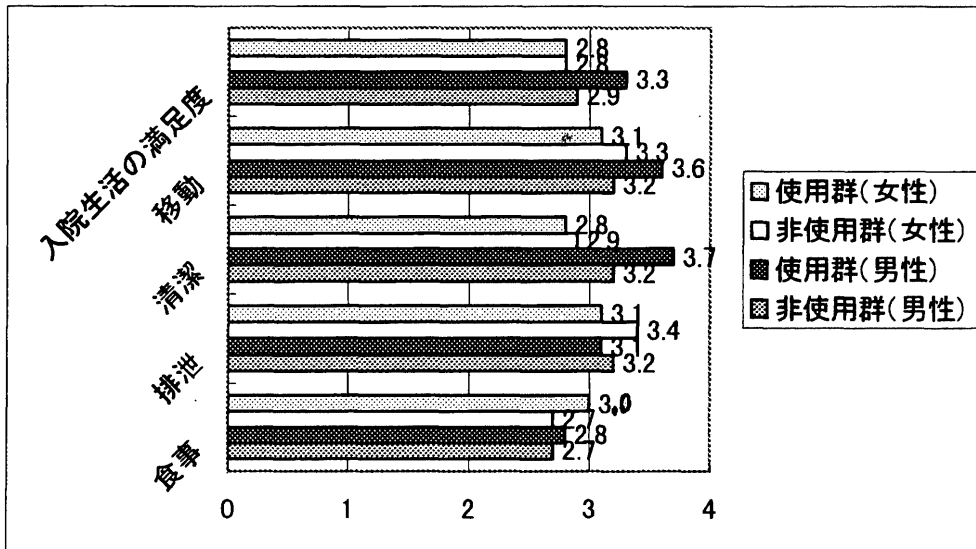


図 3. 男女別各下位尺度平均得点